

整形外科

Orthopedic Surgery

2011年度からの整形外科専門研修体制

整形外科スタッフ

整形外科部長 骨軟部腫瘍・外傷外科部長	井上善也 (腫瘍・整形一般)	S55	日本整形外科学会専門医
骨関節外科・教育担当部長	森 諭史 (下肢関節・骨代謝・小児整形)	S56	日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会指導医 日本リハビリテーション学会専門医
スポーツ・外傷外科部長	小林良充 (スポーツ・外傷)	S58	日本整形外科学会専門医
主任医長	近藤 尚 (下肢関節・外傷)	H02	日本整形外科学会専門医
主任医長	田中健太郎 (下肢関節・外傷)	H10	日本整形外科学会専門医
主任医長	北原圭一郎 (スポーツ・外傷)	H10	日本整形外科学会専門医
医 長	船越雄誠 (膝・スポーツ・整形一般)	H11	日本整形外科学会専門医

手の外科マイクロサージャリーセンタースタッフ

センター長 手の外科部長	大井宏之	S62	日本整形外科学会専門医 手の外科専門医
主任医長	向田雅司	H02	日本形成外科学会専門医
主任医長	神田俊浩	H10	日本整形外科学会専門医
手の外科フェロー	森実 圭	H14	日本整形外科学会専門医
手の外科フェロー	松井裕帝	H16	日本整形外科学会専門医

せぼねセンター

顧 問	長谷川和宏	S62	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医
部 長	長野純二	S51	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医 日本リウマチ学会認定医 日本リハビリテーション学会専門医
主任医長	大野秀一郎	H11	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医 日本整形外科学会認定医

整形外科専門研修医

専門医研修医	大西和友	H17	
専門医研修医	和田 進	H18	
専門医研修医	二宮 太志	H19	
専門医研修医	林 和憲	H19	
専門医研修医	横山裕之	H20	
専門医研修医	野坂 潮	H21	

整形外科の概要

全身の運動器(骨・関節・筋肉・腱・脊髄・末梢神経・血管 etc)を診療対象とする当院整形外科は、各領域を担当する専門医がおり、各分野ごとに専門的な診療を行っている。常勤医と研修医をあわせて 20 名である。診療内容をより充実させるため、「手の外科・マイクロサージャリーセンター」と「せぼねセンター」が併設されている。

対象疾患と診療内容

下肢の関節外科・外傷外科(担当:森、近藤、田中)

変形性股関節症に対する Direct Anterior Approach(DAA)による Minimal Invasive Surgery(MIS)での人工関節手術、変形性膝関節症に対しても MIS での UKA, TKA を行っている。2 次性変股症に対する内・外反骨切り術、キアリ骨盤骨切り術、RAO など若年から壮年、高齢者にいたるまで幅広く治療している。小児整形では先天性股関節脱臼、先天性内反足などを治療している。下肢の外傷を広く扱い、創外固定を用いた下肢延長術を行っている。また、リウマチや外反母趾などの足の外科手術も行っている。地域連携バスによる大腿骨近位部骨折の治療を浜松地区で推進している。

スポーツ医学・膝関節外傷の診療(担当:小林、北原、船越)

J1 のジュビロ磐田と 94 年からサポート契約を結んでいる。中高校生レベルからプロまで多くのスポーツ外傷の治療を行い、選手の早期復帰に貢献している。

骨・軟部悪性腫瘍の治療(担当:井上)

骨肉腫、ユーイング肉腫、横紋筋肉腫 etc. で先進的な化学療法を施行し、骨髄移植や末梢血幹細胞移植(PBSCT)を併用することも可能である。症例により Brachytherapy やマイクロサージャリーの技術を利用した組織移植、人工関節、液体窒素処理、パストール法等を適宜選択し、患肢温存手術を行っている。骨肉腫の生命予後と患肢機能は飛躍的に向上している。

手の外科診療(担当:大井、神田、向田、森実、松井)

新鮮外傷から手の先天異常、リウマチ手や四肢麻痺手の再建、さらには顕微鏡を用いた複合組織移植による造母指術など幅広い診療を行っている。手関節の関節鏡視下手術、不全切断に対する血行再建や free flap の件数が増加している。

脊椎外科(担当:長野、大野)

脊椎脊髄手術の全例に対して術中脊髄モニターを行ない、脊椎専用手術台ジャクソンテーブル・術中透視を駆使して高度な手術をより安全に行っている。脊柱側弯症等の特殊な症例は、月に 1 度新潟脊椎センターより長谷川医師を迎え、実施している。

専門医研修の概要

・卒後臨床研修終了後の医師を整形外科専門研修医として毎年若干名受け入れる

<指導体制>

1. 研修は下記の 4 群を編成して行なう。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1) ハンドグループ(大井・神田・フェロー) | 2) 骨・関節外科グループ(森・近藤・田中) |
| 3) 膝・スポーツグループ(小林・北原・船越) | 4) せぼね・腫瘍グループ(長野・大野・井上) |

2. 研修医は上記のいずれかのグループに所属する。

3. 研修は各診療グループをローテートし、ファーストタッチで担当した患者はすみやかに各専門グループに受け渡し、原則として各グループ所属の研修医が主治医となる。

4. 手術は力量に応じて可能な限り主治医が執刀する。

5. 各グループでの研修期間:1 循目各 3 カ月で合計 12 カ月

2 循目以降は個人の希望を入れて、研修するグループや研修期間を選択できる。

6. 2 年目以降は短期の院外研修も希望があれば考慮する。

7. 外来:1 循目は原則として上級医といっしょに行う。

2 循目で自分の再診枠を持ち、3 年目から初診の担当も適宜行なう。

8. 日勤帯の拘束:1 循目は上級医と組む。2 循目から 1 人で担当する。
9. 夜勤帯の拘束:2 循目まではファーストコールを行なう。
10. 各種学会、研修会に積極的に参加を推進する。そのための参加費・年会費の資金援助を行なう。

■研修カリキュラム

【一般目標 General Instruction Objective : GIO】

1. 4 年間で整形外科専門医の資格取得に必要な知識と技量のほぼすべてを習得すること
2. 1 年終了ごとに到達評価を受け、研修の問題点を検証する。

【行動目標 Structural Behavior Objectives : SBOs】

3. 1 循目での到達目標 (各グループごとの研修終了時まで)
 - 1) 骨折や脱臼の診断ができ、分類が表現できる。
 - 2) コンパートメント症候群の診断ができる。
 - 3) DVT を疑い、対応ができる。
 - 4) 腰椎椎間板ヘルニアの診断と保存的治療ができる。
 - 5) 上級医の指導のもとに閉鎖性関節脱臼の徒手整復、鋼線牽引、ギブス・シーネ固定ができる。
 - 6) 上級医の指導のもとに四肢骨幹部骨折や大腿骨頸部骨折の観血的整復固定 (ORIF)、人工骨頭ができる。
 - 7) 上級医の指導のもとに四肢開放骨折の初期治療ができる。
 - 8) 上級医の指導のもとに単純な上腕骨顆上骨折、橈骨遠位端骨折の ORIF ができる。
 - 9) 上級医の指導のもとに足関節両果骨折の ORIF ができる。
 - 10) 上級医の指導のもとに手指ばね指・ドゥケルバン腱鞘炎の手術ができる。
 - 11) 上級医の指導のもとに膝の関節鏡視、半月板部分切除ができる。
 - 12) 上級医の指導のもとに良性骨・軟部腫瘍の手術ができる。
 - 13) 病棟において主治医として指示が出せる。
 - 14) 主治医としてリハビリの指示ができる。
4. 2 循目の到達目標
 - 1) 閉鎖性関節脱臼の徒手整復、鋼線牽引、ギブス・シーネ固定が下級医師に指導できる。
 - 2) 大腿骨頸部骨折の ORIF と人工骨頭が自分ででき、下級医師に指導できる。
 - 3) 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の ORIF が下級医師に指導できる。
 - 4) 四肢開放骨折の初期治療が自分ででき、下級医師に指導できる。
 - 5) 上級医の指導のもとに上腕骨外顆骨折・通顆骨折の ORIF ができる。
 - 6) 単純な上腕骨顆上骨折、橈骨遠位端骨折の ORIF が自分ででき、下級医師に指導できる。
 - 7) 上級医の指導のもとに骨幹部粉碎骨折・足関節粉碎骨折の ORIF ができる。
 - 8) 手指ばね指の手術が自分ででき、下級医師に指導できる。
 - 9) 膝の関節鏡視、半月板部分切除が自分ででき、下級医師に指導できる。
 - 10) 上級医の指導のもとに腰椎椎間板ヘルニアのラヴ法、腰椎椎弓切除術ができる。
 - 11) 上級医の指導のもとに TKA, THA ができる。
 - 12) 上級医の指導のもとに四肢の転移性骨腫瘍の手術ができる。
 - 13) 上級医の指導のもとに悪性腫瘍の化学療法ができる。
 - 14) 上級医の指導のもとに先天性内反足・発達性股関節脱臼の保存治療ができる。
5. 各種学会または研究会で最低年 1~2 回発表をして知識を深める。
6. 研修終了までに専門医申請に必要な 2 編以上の医学論文を完成させる

<研修実績 2009 年度>

● 卒後 4 年次専門医研修医 (A)

執刀手術件数	96
介助手術件数	279
学会・研究会等発表数	2
論文執筆数	1

● 卒後 5 年次専門医研修医 (C)

執刀手術件数	166
介助手術件数	188
学会・研究会等発表数	4
論文執筆数	2

● 卒後 5 年次専門医研修医 (B)

執刀手術件数	157
介助手術件数	258
学会・研究会等発表数	5
論文執筆数	1

● 卒後 6 年次専門医研修医 (D)

執刀手術件数	176
介助手術件数	142
学会・研究会等発表数	3
論文執筆数	4

<専門研修終了後>

1. 当院に就職希望のある場合、上記到達目標達成が認められ、整形外科専門医の資格が取得できれば就職を考慮する。
2. 大学入局など他施設での研修を希望する場合、期待に沿えるように支援する。

【週間スケジュール】

※整形外科「回診・検討会」週間予定表 (AM8:00~9:00)

月	火	水	木	金	土
8:00-8:30 Hand 回診	8:00-8:30(班別) せぼね検討会	8:00-9:00 グループ別 回診・検討会	8:00-8:30(班別) Hand 検討会	8:00-8:30 抄読会	8:00-9:00 研修医 勉強会
8:30-9:00 全体検討会	下肢検討会 8:30-9:00 リハ検討会 8:00-9:00 Hand 検討会		下肢検討会	8:30-9:00 全体検討会	